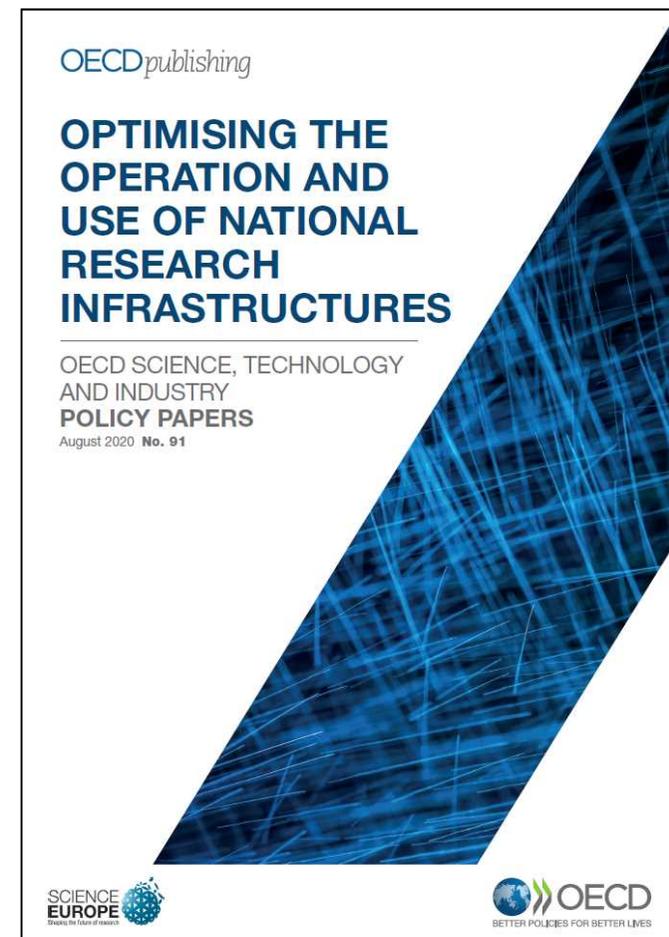
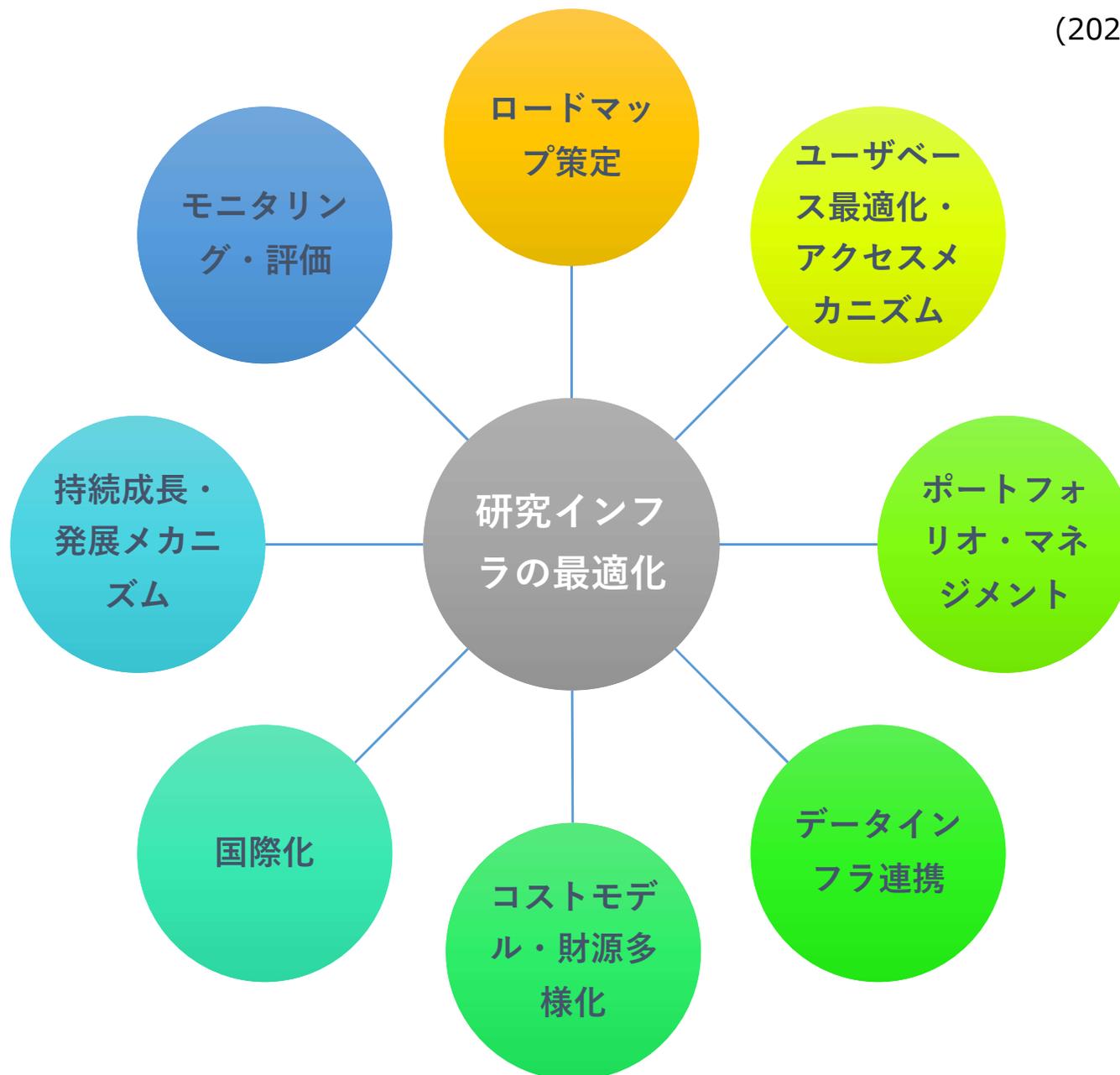


OECD/GSF(グローバル・サイエンス・フォーラム)提言 「国内研究インフラの運用と利用の最適化」

(2020年8月3日公開)

資料2 - 4
科学技術・学術審議会
研究開発基盤部会(第7回)
令和2年10月21日



OECD (2020), "Optimising the operation and use of national research infrastructures", *OECD Science, Technology and Industry Policy Papers*, No. 91, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/7cc876f7-en>.

1	研究インフラのユーザー構造の最適化： 新規ユーザーとリピーターとのバランス、ハイリスク課題と安定的成果創出の見込める課題との、受け入れバランス。利用者・研究課題側からのインフラへのアクセスメカニズム最適化をする方策の構築
2	ロードマップ策定： 国レベルや拠点レベルで、研究インフラのライフサイクル設計・ロードマップを持つことが重要。研究インフラ構築から、運営、リニューアル、閉鎖（装置の処分・売却等）まで、全期間を想定したロードマップを持つ
3	研究インフラの運営コストモデルと利用料プライシング（課金設定の在り方）： 研究インフラの構築および運営に要する全コストと、その関係における利用料のプライシングを可視化
4	研究インフラ（装置）のポートフォリオマネジメント： 国レベル、各機関の研究インフラ間、研究インフラ運営主体、新たに導入する装置・設備や除外する対象について、外部環境の変化や利用ニーズの柔軟な反映方策を持つ
5	データインフラの在り方と連携： 研究データの取得・蓄積・活用ツールマネジメント、第三者・研究者にとって利活用可能な形態にデータを展開
6	研究インフラの国際化： 外国ユーザーの獲得、国内研究インフラと外国研究インフラ間での連携や、分担の方策を構築
7	研究インフラ運営のモニタリング・評価方法の設計： 研究インフラのユーザーがどのような研究開発成果を出したかだけで評価するのではなく、研究インフラが存在したことによる効果、エコシステム形成による長期効果など、多様な観点からモニタリング・評価をおこなうことが必要
8	持続成長・発展メカニズムの構築： 上記(1)～(7)に関する、研究インフラの政策、インフラの構築・運営を担う法人、ユーザー含むステークホルダーの、人・組織の持続成長・発展メカニズムのインストール